

## 令和3年度 新ニーズに対応する九州がんプロ養成プラン 離島・僻地病院実習

実習生：陶山 弘暉

実習先：長崎県上五島病院

実習期間：令和3年9月2日 ～ 令和3年9月29日

上五島病院での1ヶ月を終えて

今回私は離島・僻地病院実習として、上五島病院で約1ヶ月間の実習をさせていただきました。上五島病院は長崎県五島、中通島のほぼ中央に位置する長崎県病院企業団の病院です。病床数は一般病床120床、地域包括ケア病床62床、感染病床4床の計186床となっており、新上五島町で唯一の入院施設がある病院でした。また島内での救急搬送を上五島病院にてほとんど受け入れているため、勤めている先生方は毎日忙しくされていました。

上五島病院では歯科がないため、今回の実習では入院患者や往診患者の口腔ケアや口腔内診察・清掃指導を行う他、内科の外来診察や病棟での患者さんの全身管理について見学させて頂きました。精査のための内視鏡検査や心臓カテーテル検査、気管支鏡検査などの専門的検査や時間外救急での対応などに同伴させて頂き、歯科では普段経験しないことを体験・見学させて頂きました。また脳腫瘍の患者さんで全身状態の悪化にて緊急搬送が必要ということで、自衛隊のヘリコプターにて長崎大学病院へ搬送するケースも見受けられました。がん診療に関しましては、肺がんや消化器系がんなどの検査や化学療法などの見学をさせて頂きました。上五島病院には放射線治療の設備がないため、対応が困難な患者さんに関しては、必要な処置を行ってから島外の医療機関へ紹介するといったケースなどがあり、また島外での治療が終了してからの全身管理や終末期にあたる患者さんなどに対しての緩和治療などをされているケースなども見受けられました。

今実習にて口腔内診察を行う中で、ご高齢になるにつれて歯科に長く行っていないという方が多い印象でした。上五島病院の入院患者さんへの口腔衛生管理は、看護師さんを始めたスタッフみなさんで注意しながら気をつけられていましたが、義歯の不適合や重度歯周炎による歯の動揺など歯科治療を介入しないと改善しない現状がいくつも見られました。週に一度は診療看護師と看護師長と共に嚥下機能低下の患者さんをピックアップし今後の目標について相談したりしました。また往診患者さんで寝たきりの方などにも似たような状態を多く見受けられました。本土とは違い歯科医院が数少ないため、十分な検診や治療が行き届いていないという現状を知り、改めて離島・僻地での歯科的フォローの必要性を強く感じました。

約1ヶ月という短い期間でしたが、離島・僻地での医療従事者の診療や現在抱えている問題点などの現状の多くを直接見ることができました。



今実習にて1ヶ月間お世話になりました内科のラウンドチームです。



毎日の診療後にはチームで集まり、それぞれ担当している入院患者さんの報告や今後の予定などの情報共有をしていました。



入院患者さんの口腔ケアをしている所です。



指導医の山川先生より気管支鏡の操作法をご指導頂きました。この後、実際の患者さんに気管支鏡検査をさせて頂きました。また検査後の気管支鏡での肺生検の補助にも参加させて頂きました。



毎週木曜日は内科カンファレンスの日でした。ここではその週にあった珍しい症例や重症例の患者さんに対する処置等について報告し、全体で情報の共有や検討をしていました。



急患の狭心症疑いの患者さんの対応している所から見学させて頂いた所、そのまま心臓カテーテル検査の現場に参加させて頂きました。



休日は島内の観光をしました。世界遺産に登録されています頭ヶ島天主堂です。



上五島の散策道中に坂本龍馬の銅像を見つけました。他にも数体島内にあるとのことでした。



上五島の北端に位置する矢堅目公園の展望所です。右側に見えるのがトトロ岩という名前だそうです。



矢堅目公園展望所から下に降りてみると綺麗な海岸が見られました。



実習報告会の様子